

児童養護施設桑梓 令和3年度事業報告書

○職員育成

1 研修の充実

(1) 新任研修

令和3年度は男性指導員3名、女性指導員1名、女性保育士5名、中途採用で女性保育士1名の計10名を採用。ユニット会議等で研修を行っている。

(2) 施設内研修

OJTならびにOFF-JTの実施。ケースカンファレンスの充実を図る。

今年度は権利擁護のガイドブックを用いて施設内研修の実施とユニット会議にて児童支援の事例検討を4回行った。実際の児童支援の中で出された課題について検討。改善のために何ができるか、それぞれの立場で考え、施設の取り組み方を話し合った。

(3) 階層別会議

現場をまとめる統括主任を軸に男子ユニット、女子ユニットに主任をユニットリーダーとして配置。実際の児童支援について各ユニットに4人のケアリーダーを配置。階層ごとに会議を開き、支援体制の強化を図った。

- ・主任会議 施設長、統括主任、主任。
運営方針を協議、決定。
- ・ケアリーダー会議 統括主任、主任、ケアリーダー。
支援方法や対応の仕方などを協議、指導、決定。
- ・ユニット会議 統括主任、主任、ケアリーダー、ユニット職員。
OFF-JTを意識し、職員が対応できる方法を全体で共有し、取組と評価を繰り返し行った。

○職員間連携体制

入所児童の健全育成のため、組織的・計画的かつ、柔軟な支援を実施。職員は常に児童への支援向上のために、連携に努めた。

7月と2月に施設内人事交流を実施。多くの職員が勝手の違う状況に戸惑いや緊張の色を見せていた。そのような中でも性別、年齢の違う児童を相手に工夫して関わる姿も見られていた。特に他のユニットを実際に見て、感じたこと、自身のユニットで導入したいことなど、違った環境に身を置くことで、支援の幅を持たせるきっかけとなった。

一昨年度からの継続課題として挙げている風通しの良い職場環境だが、今年度も施設長を中心として職員と面談の機会を設けた。新採用職員が増えたこともあり、様々な視点で意見が出された。

健全な組織運営の構築のため、報連相の流れの徹底、指示系統の確認。指示を出す際には、職員が取り組みやすいようにサポートし、指示を受けた職員は責任を持って取り組む。分からないことを分からないままにしないように、職員相互が協力し合う体制づくりに努めた。

○安全管理会議

(1) 避難訓練

毎月1回の避難訓練と年1回の総合防災訓練を実施。火災・地震・不審者対応を想定した訓練の実施。水消火器を使用した初期消火訓練、避難はしごを利用したものなど、想定される状況下での避難訓練を実施。

(2) 常備薬、遊具の等の定期点検

定期的な点検を行い、適正管理の仕方を指導、確認を行った。

(3) 防災用具の整備と確認

必要物品の洗い出しと確認、整備のほか、使用法の確認を行った。

(4) トイレ新聞

身近な疑問や子どもに伝えたい事を新聞として作成し、掲示した。

○生活進路会議

(1) 自活講座

高校生を対象に南棟での自活訓練を計画、実施、評価を行った。自活訓練室の整備がなされ、より一人暮らしに近い環境で実施できた。オンライン講座にも参加。今後も定期的に参加予定。

(2) スマホ講習会

小学6年生以上を対象に講習会実施。ネットトラブルについて学んだ。

(3) 代表者会議

各ユニットから児童を招集し、意見聴取。問題把握と改善協議を行う。

(4) トイレ新聞

ネットに関するトラブルを中心に新聞を作成、掲示した。

○性教育会議

(1) 埼性研 報告・周知・検討

埼玉性的虐待研究会（埼性研）に参加。人との距離感について講習会を開き、相手と自分の感覚の違いを学んだ。

(2) 誕生日を祝う色紙の作成

職員より手書きのキャラクター色紙を作成。『生まれてきてくれてありがとう』のメッセージを添え、誕生日会の時に手渡した。

(3) トイレ新聞

身近な疑問や子どもに伝えたい事を新聞として作成し、掲示した。

○給食者会議

(1) 行事食企画

誕生日や年中行事の際の献立を考え、児童に提供。一年の思い出としてユニット毎の写真を掲示。

(2) 児童の調理参加

週3日職員が献立を考え、買い出しから調理を行った。子どもがその日に食べたいものなど、より意見を反映することができた。その際、一緒に調理経験を積

む。軽微なケガもあったが、協力して調理し、みんなで楽しく食べることや喜んでもらうことで子どもたちの自信につながった。

なお、児童が身近に感じている疑問について答えるトイレ新聞は20項目について作成。継続して掲載することで、職員からの指導はもちろん、目で見て振り返る機会にもつながり、定着が見られている。

○子どもの遊びプログラム（なんでも大会）

月1回を目安に実施。参加賞や優勝賞品も用意し、子どもたちが楽しく参加することができた。

ゲーム大会 ミニ運動会 ウォークラリー ナイトウォーク 秋祭り グラウンドキャンプ体験 卒園卒業を祝うフォトムービー上映会 など

○地域に開かれた施設としての役割

施設グラウンドに芝を植え、緑地化。入所児童だけでなく、地域の方々にも利用してもらう事で、地域に広く施設の存在を知ってもらう。

○ホームページの充実と活用

ブログでの情報発信を行い、入所児童の生活が分かる内容を発信。今後も桑梓に興味を持ってもらい、人材の確保にも繋げていく

○地域との交流事業

今年度も、感染症予防対策のため、交流事業が中止となった。今後、行事が再開できることを念頭に、職員がイメージできるように、なんでも大会という形で施設内の軽微なプログラムを計画、実施、経験させた。